



# 新九郎通信

発行 小田原市栄町2-13-3 (株)伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳  
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

早いもので来年の手帳が店頭に並び始めました。城址公園や二宮神社の巨木をなぎ倒した台風15号。被害を免れた栢山の田んぼでは稲刈りが始まっています。芸術の秋。第104回小田原フィル定期演奏会、第59回こゆるぎ座定期公演、第76回西相美術展と、第58回市民文化祭のプログラムからは小田原の文化・歴史の厚みが伝わります。小田原映画祭は後半戦、えっさほい踊り、産業祭りと小田原の秋を彩る楽しいイベントで10月がスタートします。小田原を愛する小さな市民力が、少しずつ町を動かしている。そんな手ごたえを感じる今年の秋の小田原です。

## 新九郎 10月の展覧会のご案内

## 近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ
9/28(水)~10/3(月) つばめ写真友会写真展	20名の会員による写真展 風景・草花・人物・各地の行事 等自由なテーマの作品約60点
10/5(水)~10(月) 新樹日本画展	小田原を中心とした会員で、毎年発表している日本画のグループ展。会員8名、約30点
10/12(水)-17(月) 第14回 湘展	住谷重光氏主催の絵画教室の作品展。身近な風景や静物等の水彩・油彩
10/19(水)-24(月) フォトムゲン(∞)展	富士写真フィルムOB、7名による写真展、風景等約60点
10/13(木) 新九郎デッサン会	18:15-20:45 コスチューム、固定ポーズ 会費 1500円
10/26(水)~10/31(月) 人生遊々展	旧三中三期生による作品展 水彩・油彩・水墨画・書・絵 がみ・写真・盆栽・花・陶芸等

会期・展覧会名	会場
10/12(水)~17(月) 鈴木三成陶芸展	飛鳥画廊 0465-24-2411
10/5(水)~9(日) 水墨画作品展(島田皓紀・門下)	アオキ画廊 0465-23-5624
10/13(木)~17(月) 第13回坂田計雄 油絵展	アオキ画廊 0465-23-5624
9/28(水)~10/3(月) 第15回 葱のぐ箱展	お堀端画廊 0465-23-7819
10/5(水)~10(月) 落合照男絵画展	お堀端画廊 0465-23-7819
10/20(木)~24(月) 秋桜会展	ツノダ画廊 0465-22-4250
10/4(火)~16(日) 金子牧個展	すどう美術館 0465-36-0740
10/19(水)~23(日) 第76回西相展	小田原市民会館 0465-22-7146
10/2(日)~9(日) 第40回南足柄市美術展	南足柄市文化会館 0465-74-0772
10/5(水)~10(月) 第63回湯河原美術展	湯河原町立図書館 3F 0465-63-4155
10/13(木)~16(日) 小田原市民書展	小田原生涯学習センター けやき 0465-36-5891
10/3(月)~9(日) 住谷重光展	O ギャラリー(銀座 1-4-9) 03-3567-7772
10/18(火)~23(日) 書・作陶展	アトリエ KOMINE 0465-20-7720 城山 4-2-16
10/6(木)~18(火) 第3回鉄道資料展	寄りあい処こうづ 0465-47-0933

### 小田原怪獣散歩

若林寧人

子供の頃から大好きな怪獣で、大好きな故郷小田原の名所や風景を紹介するイラストシリーズ



私は散歩ならぬランニングが趣味だ。小田原は変化に富んだ地形をしているので、多彩なコース設定が出来るという点でランナーにとって有

難い。お気に入りのコースのひとつが早川から根府川方面に向かう旧道である。適度なアップダウンがあって坂道の練習にもなる。石橋で山側に入り、みかん畑の中の最後の急坂をほとんど歩くように登りきり振り返ると、疲れを忘れさせるような素晴らしい景色が眼下に広がる。新幹線と東海道線の鉄橋が集落を跨ぐ様に並ぶ鉄道ファンにも人気のスポットだ。ふと背後に気配を感じて、遙か三浦半島まで望める海側から山側に目を転じると、鬱蒼とした緑の断崖。こんな怪獣が地鳴りと共に現れても不思議は無いのである。



### 清閑亭スケッチ展

~お気に入りの作品を絵はがきに~

平成23年10月15日(土)~30日(日) 11:00~16:00

7月に行われた、小田原銀座商店街の6画廊による「第9回街なみ・ふる里再発見!展」。今回はその中から清閑亭を主題とした30点を超える作品を集め展覧会を開催します。さらに会期中にご来館された一般の方にも投票していただき、応募作品の中から「絵はがき」となる作品を選びたいと思います。

会場: 清閑亭 ☎0465-22-2834 火曜休館

主催: NPO法人小田原まちづくり応援団

# 長谷川湊二郎展 あの猫に会いたい

2012 1月7日(土)~1月30日(月) 会期中無休

主催/長谷川湊二郎展実行委員会(おだわら ミュージアム プロジェクト・小田原市)

入場料/一般 500円(前売り 400円) 大高生 300円 中学生以下無料

会場/松永記念館本館・別館(小田原市郷土文化館分館) ☎0465-23-1377

開催時間/10:00~17:00(入館時間 16:30 まで) ■平塚美術館館長代理(兼)学芸主管

土方明司氏による・講演会 1/7(土) 14:00~・ギャラリートーク 1/14(土)14:00~

問合せ先:おだわらミュージアムプロジェクトTel. 0465-36-7868・090-9324-4084(木下)

[前売りチケット取扱い] 伊勢治書店本店(小田原銀座通り)・ダイナシティ店(ロビンソン)

プラザ店(イトーヨーカドー)・二宮店・辻堂店

●新九郎通信では9月号~12月号でOMP会員が「私の好きな湊二郎」として絵をご紹介していきます。



時計のある門(東京麻布天文台) 1935年

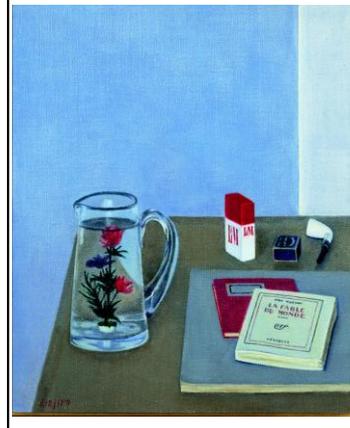
しなければならず、しぶしぶその場所を離れた。巴里から帰り3年ほど過ぎてからある日突然「時計のある門」が心の中に浮かんだ。早速行ってみると最初見た時と変わらぬ姿でそこにあった。「扉は私が描きに来るのを待っていたようだった。」という。

東山魁夷が10年をかけた唐招提寺御影堂障壁画の床の間に掛ける「山雲」を描いた時のエピソード。モチーフを求め全国を訪ね歩き、岐阜の山中をさまよった時、突然目の前にその風景が表れた。その時、描けと命ずる声を聞いたという。いずれも名作誕生秘話として興味深い。

OMP 会員 木下泰徳

長谷川湊二郎のいうまでもなく代表作である。一般的な人気では「猫」(1966)に一步譲るが空、建物、扉、道路のこれ以上動かしようのない緊密な構成、扉の赤・松の緑の対比の美しさと落ち着いた色調、画面は静寂で格調の高さが漂う。まさに一級品の絵画である。

湊二郎が巴里へ行くとき、ソ連領事館で用事を済ませ、時間があったので近所を散歩すると「時計のある門」に出会った。見た瞬間これは素敵だぞ描きたいと思った。しかし旅行に出発



「水中花」 1965年

におそわれる理由の一つにここがあらうかと。平明な写実でありながらも我々の目線とは明らかにズレがあります。画面空間の隅々まで澄明感が通い、どことなくある種の幻想味をおびている。フラットな画面構成の作品の題名は「水中花」ですが、本もタバコもマッチもそして机も、全てのものの価値を見出して描いていることが観て取れます。1965年いとう画廊での個展に出品された作品のひとつです。

OMP 会員 柏木隆一

作家の目を通し描かれた対象には必ず中心が存在するのが普通ですが、そこには気持ちや思いが現れるもの。ところが長谷川作品は中心が複雑、まるで中心が偏在しているかのようにあちこちに。

不思議な感覚

## 9月のこと

来年2月~3月にかけASHIGARAアートフェスティバルVol.0が開催される。そのワークショップに参加した。

9月10日(土)「スタディーツアー1 アートを学ぼう」で、ヨコハマトリエンナーレ 新・港村会場を見学。建物は太陽光発電と新充電システムを取り入れ、外部から殆ど電気を入れていない。全体のブースや仕切りは廃材を使い建築家やアーティストによりデザインされている。環境に配慮した未来都市を志向している。ギャラリー、写真、絵画、デザイン、図書館、越後妻有アートトリエンナーレ・瀬戸内国際芸術祭等々の国際展の紹介 etc 様々なブースが並ぶ展示のほかにフードコートや美容室が入っていて、実際にカットをしている客もいて驚いた。最後のゾーンに韓国と日本の家を折衷した村の家があった。木の骨組みが素晴らしい、会場全体もベニヤを使ったシンプルな感じがよかった。若手の彫刻が並んでいた。米粒大のものから象の様な大きいものまで工夫を凝らした表現ではあったが、モチーフは全て動物。三沢厚彦氏の影響の大きさを感じさせた。



9月17日(土)アート足柄「スタディーツアー2 地域を知ろう」に参加。中井町、大井町方面を回った。中井町の米倉寺に左甚五郎作「水を飲みにきた龍」があった。本堂の本尊を守るように両脇の柱に龍が目を剥いて巻きついている。大きさもあり迫力のある顔は現代アート顔負け。やはり巨匠である。アートマップに入れてぜひ多くの方に紹介したい。厳島湿生公園は水と緑の調和した公園だ。中央に厳島神社があり、周りを池が囲む。鳥を撮影するカメラマンが大勢いたが、有名なスポットらしい。ここでアートを展開できたら楽しいと思う場所だった。



大井町は第一生命の山を歩いた。「銀杏の道」といって道路から少し脇に入ると1kmばかりの素晴らしい散歩道がある。両側に高い木が茂り道のわきには彼岸花や白や薄いピンクの小さな花が群生している。左手を見おろすと足柄平野が一望でき、箱根連山、晴れていれば富士山も見える。ここでも野外彫刻等のアートが展開できるだろう。



9月18日(日)

アーツ千代田 3331 見学会

彫刻家ひでひこ氏の企画に参加。廃校になった校舎を利用し昨年



6月にオープン。中にはギャラリー、デザインスタジオ、レンタルアトリエ、レンタルスタジオ etc が入る。ちょうど千代田芸術祭 2011 を開催中で、1階入り口にはカフェレストラン、左手のオープンスペースでは音楽のリハーサルをしていた。奥の広いスペースでは誰でも参加できる無審査方式の展覧会を開催していた。若い作家たちのエネルギーが溢れる。屋上ではアートフリーマーケットをやっていた。ポコアート全国公募 2011 受賞者展に注目した。ポコアートとは「障害のある人×ない人×アーティストが核心の部分で相互に影響し合う場」という理念を示している。サインペンで描かれた街の絵は凄い迫力。小田原でもぜひ実現したい展覧会である。昨年栃木県立美術館で行われた「イノセント展」も見たが最近アウトサイダーアートにすごく惹かれる。佐賀町エキシビット・スペースというギャラリーで、内藤礼展を開催していた。直島で見れずに残念な思いをしたが、こんな所で出会えるとはラッキー。インスタレーション制作のためのドローイングであったが、思考過程がよくわかり参考になった。

